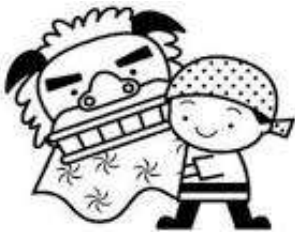


\*\*\*\*\*



# けんぎ

令和4年



さいたま市立 大宮北小学校 学校だより

\*\*\*\*\*

## 2022年スタート!

校長 渡辺 明

新年 あけましておめでとうございます。

日頃より教育活動へのご理解とご協力をいただいております保護者の皆様、地域の皆様、本年もどうぞよろしくお願ひいたします。皆様の新たな一年のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

昨年は8月に新型コロナウイルス感染拡大の大きな山がありましたが、オンライン授業などを活用して、教育活動を止めることなく、子どもたちと前へ進むことができました。学校行事も感染予防に配慮しながら少しずつ活動の範囲を広げ、校外学習も全学年で実施することが叶いました。また、できなかったことができるようになっただけでなく、新しい企画もありました。KDC主催の謎解きツアーと花火で、子どもたちが楽しい時間を過ごせたことにも感謝しております。ありがとうございました。

昨年の12月10日、氷川神社の十日市(とおかまち)に見回りに行きました。例年の様子がわからないので比較のしようもないのですが、子どもの姿は少なかったものの、縁起熊手を買って求める人の列が見られました。参道や境内の空気も清々しく、時折響く手締めの声にも、新しい年に期待する祈りの気持ちを感じました。



十日市の様子 (R3.12.10)

熊手は元々本来の道具として、市や祭りの露店で売られていたのを、その形や用途から、幸運や金運をかき集める縁起物となっていたとされています。縁起のよい小判や千両箱、福の神として有名な七福神と宝船、鶴、亀、鯛、招き猫、松竹梅などが飾られていますが、関東では表側におかめ・おたふく、関西では裏側に恵比寿・大黒天が飾られていることが多いそうです。熊手を驚の爪に見立てた「驚づかみ」や、戦勝の軍扇に由来するという話もあります。



参道清掃 (R3.12.15)

熊手といえば落ち葉掃きを連想しますが、12月15日には氷川神社の参道清掃も行うことができました。昨年はコロナ禍、一昨年は雨で中止ということで、3年ぶりの実施です。大宮北中の1年生と協力して、地域での活動が行えたことも意義のあることでした。

さて、今年は寅年です。干支は中国が発祥で、シルクロードを通じて世界中の様々な国に伝わっていますが、国によって少し違いがあり、全ての国に寅年があるわけではないようです。例えば、ブルガリアでは寅の代わりに猫、トルコでは豹になっているとか。また、中国でも、もともとは獅子が干支に入っていたのを、神様が寅と入れ替えたという説もあります。こんな話も、多様性や国際理解について子どもたちに考えてもらうための題材になりますね。

十二支では壬寅(みずのえとら)の年です。「壬は妊に通じ、陽気を下に妊(はら)む、寅は蟻(ミズ)に通じ、春の草木が生ずる」という意味があり、それを組み合わせた壬寅は、厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎となる年、とのこと。皆が願っている、コロナ禍からの回復をイメージできるように感じます。これから始まる2022年が、子どもたちにとって、「芽吹き」や「成長」の機会の多い年となるよう、教職員一同力を合わせてまいります。

※写真は、大宮氷川神社の許可を得て掲載しました。